

写真、イラスト、グラフなどを有効に使う紙面づくりを

読まれる通信づくりのヒント⑥

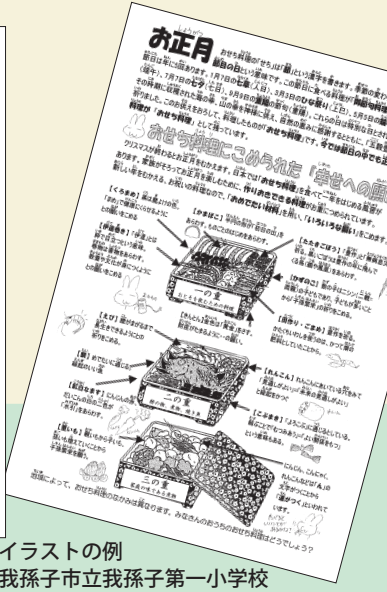
紙面を一目見たとき、最初に目が行くのは、写真やイラスト、グラフなど、文章以外のビジュアル要素です。上手にこれらの要素を使うことが、親しまれる通信づくりでは大切です。

記事の中心にする場合

大きく扱い、必要なら「説明」を。
写真、イラスト、グラフなどをメインにするか、そうでないかをまず決めます。記事の中心である場合には、大きく扱い、必要ならば本文とは別に「説明」をつけます。



写真がメインの例
岡崎市立矢作東小学校「一本の樹」



イラストの例
我孫子市立我孫子第一小学校「ランチタイム」



グラフの例 太田市立藪塚本町中学校「花」

イラストで紙面をにぎやかにした例
津山市立北陵中学校「ドンマイ」



写真を上手に記事に添えた例
長野市立豊栄小学校「もりもりもり」

記事の補足の場合

関連する記事の近くに。
記事の補足である場合には、できるだけ関連する記事の近くに入れます。

紙面のアクセントにする場合

できるだけ1~2点のイラストを入れたい。
季節感を表したり、紙面のアクセントにする場合には、イラストをタイトルや見出しの周辺、記事中に小さめに入れます。文字だけの紙面は敬遠されますので、できるだけ1~2点は入れたいものです。



◎例示した通信は、いずれも第5回「育！プリントコミュニケーション」コンクール入賞作品です。

◎同作品集はご希望の先生にさしあげています。お申し込み方法は財団HP (<http://www.riso-ef.or.jp/>) をご覧ください。